

芦安中学校後期自己評価書

令和2年1月22日（水）

南アルプス市立芦安中学校

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート（1月）及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月）

小中一貫校への移行の観点から、昨年度より評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施した。

2 学校評価の分析と改善方策

（1）学校運営・学校経営

〔達成状況〕全体としては、良好な状態にあるといえるが、「報告・連絡・相談」は機能している面と不十分なところがある。PDCAサイクルを活用しながら、教育活動や行事の目的や意義を吟味し、指導内容や指導方法を共有する中で実践を積み重ね、さらに充実した教育活動を展開していく必要がある。小中一貫の面から系統的・継続的な教育活動を計画的に進められる体制を整える。

〔改善策〕学校運営にあたって小学校職員も含め各分掌の職員同士が連携を取り、相互依存しながら学校全体で取り組む体制を整えていく。小規模校ならではの特性をふまえ、教育活動が常に全職員の共通理解のもとで進められるように対話を大切にする。

（2）学習指導

〔達成状況〕『思考力・判断力・表現力』の育成する場を意識して、「楽しさ」「わかりやすさ」を大切にしながら、より深い学びとなるように授業づくりをしていく。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」等、学び方の指導に課題があるように感じる。

〔改善策〕「主体的・対話的で深い学びとは何か」を意識した授業の工夫および指導内容や指導方法の改善を組織的な研究をもとに推進していく。家庭学習の習慣化も含め、保護者との連携を工夫する。

（3）生徒指導

〔達成状況〕より安心・安全な学校を目指し、生徒・教師間および生徒間のより確かな信頼関係の構築することが必要である。

〔改善策〕自分の考えや意見を伝えるとともに、他者の話を傾聴する姿勢を生徒が持てるように、教職員が範を示し、信頼関係を深める。生徒の小さな変化に気づくことも含め、共感的な生徒理解に努め、効果的な指導とは何かを生徒の変容の面からしっかり見取る。

(4) 保護者・地域との連携

〔達成状況〕「学園祭」「芦安ふれあい運動会」「学校林整備」「芦安文化祭」等、PTA活動は充実していた。学園祭は文化部門のみとなり、ダンス、弁論、暗唱等において生徒の表現力を披露することができた。芦安ふれあい運動会では、雨天であり保護者や地域の願いに十分応えられていない面があったので、今後に生かすようにしたい。に添えない部分も芦安文化祭では、2年目となる学年発表、太鼓演奏（今回は小中合同演奏含む）を楽しんでいただき、好評だった。また、地域の方のご協力による作品展示も昨年以上に充実していた。

〔改善策〕ユネスコスクールとしてESD教育（SDG's）をする中で達成感や成就感、自然の素晴らしさと地域の歴史や伝統・文化を実感できる取り組みを今後も考え、保護者や地域の方々のご協力に感謝しながら、本校の特色を生かし、文化的な活動も含め新たな伝統を創っていく。

(5) 学校の特色ある取り組み

〔達成状況〕地域人材による活動の充実に加え、日常的な活動に関する課題が解決されてきている。を残している。小中合同行事については企画・準備・運営の円滑化に努め、生徒の自己有用感を高めたい。

〔改善策〕日常の学校生活の改善が生徒のさらなる成長へとつながるので、行事だけでなく日常的な生徒会活動・委員会活動の活性化をさらに進めて、教育活動をより充実したものにしていく。

重点課題

豊かな感性を、より豊かな活動によって培い、自分自身の気づきや他者の気づきをもとに、対話や表現から新しい何かが生まれるような土壌を創る。コミュニケーションにおける言葉の力についての生徒が理解できるようにし、豊かな表現を身に付けさせ、思いやりの心を育む。

学ぶ価値があるものに生徒たちをしっかりと出会わせ、学ぶ意義を感じられるようにする。生徒が主体的に学び、家庭学習にも有機的に結び付くように授業の工夫・改善を図る。また、教師自身が学ぶ姿勢をしっかりと示す。生徒の自治的な意識の高揚を図り、主体的な行動を促進により生徒の自己有用感や自己成就感を高める。

地域を知ることで「地域における自分」「集団における自分」といった視点を持ち、地域や集団への帰属感が高まる。地域とのつながりを考えるなかで中学生としてできることを実践する活動の場を設定する。

一人ではできないようなことでも相互依存することによりできることがあるという実感を持たせる。「相互依存による自立」「新しい価値の創造」を職員の協働体制や職員自身の経験から、生徒に伝えるとともに援助要請や支援の在り方についても生徒に継続指導する。